

創刊

シニア便り



第 0 2 0 4 0 1 創刊号

発 行 北海道シニア吹奏楽団 事務局

編 集 『シニア便り』 編集部



『シニア便り』の発刊に寄せて



団長 林 正輝

吹奏楽を経験し、もう一度吹奏楽を手にしたかと思っている人々が集い産声を上げた当団も、はや今年第九回目の演奏会を迎える事になりました。

平成六年九月四日の第一回定期演奏会の時は、団員二十六名、客員八名でスタート、その後毎年回を重ねると共に団員も増え現在は四十一名となり、充実した現状を見た時、団員の音楽に対する情熱と運営に積極的

に参画、努力されている事に感銘を受けている次第です。
この度二代目の事務局長の佐藤君が中心となり構想を練っていた『シニア便り』がいよいよ発刊の運びとなった事は、同慶に堪えなく、編集に携わった人達の『苦労』に深く感謝申し上げます。

当団の定期演奏会も明年は第十回目の大きな節目を迎えることとなりますが、この楽団は職業も生活圏も異なる人々が参加しているという事情から、月二回ではなかなか意

志の疎通を図る事が難しい状況であった。その改善策として、三年前から毎月定例の懇親会を開催しているが私自身もなかなか参加できず、又参加者も諸々の事情により範囲が限定されている様に思われるが、融和を保つ為には大いにその効果を奏していると思っ

供できる事を期待する。その為には、いろいろな分野のどんな事でも気軽に投稿できる『便り』である事を望みます。

この『シニア便り』、『懇親会』更には月二回の練習を通して団員各々がお互いを理解し、楽しい雰囲気の中で美しい音を奏する事ができ、又団員並びに関係者を含めたところの生涯学習に寄与する事ができたら、この楽団の結成を発案した者として真に喜びに堪えない。末永い『シニア便り』となる事を祈念してお祝いの言葉とします。

『シニア便り』の発刊によせて



副団長 中村 暁生

数人のメンバーで発足した私たちのバンドも九年目を迎え、今や40名を超える陣容になりました。年代も十代から七〇代まで経歴も仕事もさまざま、これほど幅広い人たちが集まってやっているバンドは他にはないと思います。

バンドの設立趣意書の一節に「音楽を楽しむ、仲間と交流し、それを生活の糧とする豊かな人生のお手伝い、私たちはそんな楽団を目指しております。」とあります。毎月一回の懇親会はその主旨にそって大きな成果を上げていますが、必ずしも全員が参加できるものではありません。つき二回の練習ではなかなか話し合う機会もなく、「ただみんなと楽器を吹いて終わり」という方もいらっしゃるでしょう。

この度発刊される『シニア便り』を通して、皆さんが日頃感じていること、考えていることと一端をお互い知ることにより、演奏にも一段と磨きがかかることと思えます。担当された方々には『苦労』をおかけするわけですが、皆さんで協力して『シニア便り』を育てていこうではありませんか。

『シニア便り』創刊に当たり



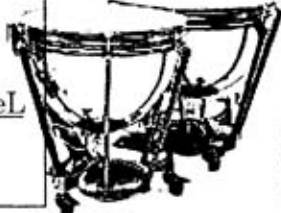
事務局長 佐藤 友則

平成五年六月の当団設立以来の事務局長であった古川氏の後を引き継ぎ、平成十年十月に事務局長の委嘱を受けました。それから早丸三年が過ぎ、その間第六回、七回、八回と三回の定期演奏会の企画を経験させてもらいました。しかしそれにも増して第一回より定期演奏会に携わられた初代の古川事務局長の『苦労』は大変なものだったと推察し感謝致しております。と同時に団長、副団長の基、団員一同今日迄休演する事なく定期演奏会を続けられ、来年は第十回という記念すべき年を迎えようとしている今、平成十四年の年明けに兼ねてより提唱していた『シニア便り』が団員皆様の『協力』により発刊できる運びになった事は真に感慨深いものがあります。

私が入団した平成七年三月頃の練習は、今は定期演奏会の会場になっている「かである2・7」で月二回、夕方六時頃に集まって来て二時間程練習をしてそれぞれ帰って行く

というパターンでの繰り返しであった様に記憶しています。その後練習会場も何度か変わり、現在の様に安定的になったのは平成十年の四月からであります。その間に忘・新年会等の話が湧き上がりましたが、年一、二回では足りなくなつたようで、そしてついに月一回の会に展開されました。しかしこれも平成十一年からは毎月の幹事を行事予定表に組み入れ、全員参加を旗印に今日まで定期演奏会と同じく休むことなく『シニアの歴史』(?)として刻まれて来ております。

今後はこの『シニア便り』が使命とする、全団員が気軽に記事を投稿し、団員の現況、シニア吹奏楽団の状況、将来の展望等を休団者を始め、仕事の都合上なかなか練習に参加できない団員等に配信し、団の状態を知ってもらい、又外部的には団のPR活動の一助にもなり、継続して発刊される事により団の発展に貢献できる便りになるようにと思えます。尚、この便りの発刊に当たり、ご多忙の中貴重な時間を割いて編集頂いた高橋次長、吉田さん、渡辺さん、久光さんの皆様には厚く御礼申し上げます。



皆さんの投稿お待ちしております

原稿持参、ハガキ、封書、電話、FAX、メールなど何でも結構、方法は自由です。
○シニアメールアドレス
seniorbrass@yahoo.co.jp

シニアホームページ

www.geocities.co.jp/CollegeLife-café/5711/

『シニア便り』発刊に寄せる

私の雑感
理事 渡辺 順三

北海道シニア吹奏楽団の設立は、林团长にとつて永年の夢の実現でした。道内吹奏楽界のトップとして現役の吹奏楽愛好家と接しながらも、林团长はかつての多くの教え子達が、音楽とは無縁のギスギスとした実社会の中で、くたびれはじめているのを知っていたのでしよう。「へたくそでも良い、彼らのために音楽を樂しむ場を作つてやりたい。」そんな团长の夢に中村副团长はじめ皆さんが賛同し、平成五年六月『北海道シニア吹奏楽団』が設立されました。

私をはじめ練習に参加したのは翌年一月でした。当日「かである2・7」の練習場が集まったのはペット一人、クラ数人と私の五、六人、練習曲はユニゾンで、「時計台の鐘」、「早春賦」だったように思います。(あまり楽しくなかったナ)その後团长の声かけて参加者も増え、第一回定期演奏会を目指していた平成六年の夏、中央小学校での練習場の事です。

中村副团长「イヤー、何だか俺も吹きたくなつてきた。林先生、棒振つてよ。」といつて、ホルンを吹いたことがあります。(腕前ですか？腕前はアレですよアレ。顔ですか？顔は少年でした。)

こうして出発した定演ですが、残念ながら今回もまた程度の差こそあれ、まだまだエキストラに頼らざるを得なく、早く100%自前の定演にしたいものです。

私にとつてのシニアは精神安定剤。我を忘れる非日常の場、正にあの世のような所です。他人を思いやる能力の欠落した、度の過ぎた個人主義の現代に生きる

我々は、老若男女を問わず少なからずトレスがありみんな孤独なんです。誰もが日常の他に心の安らぐ場を欲している今、我々にはシニアがある、何と幸せな事でしょう。团长や皆さんに感謝せずにおれません。しかしこうしてシニアの数年を思い起こす時、事情はともあれ何事も中心となつて動いてくれたFさん、新しく楽器を買つて参加してくれたTさん等等など、初期に活躍してくれた方々の不参加は非常に残念です。あのかたがたのお陰で今のシニアがあります。もう一度一緒にステージに上がりたいと思うのは果たして私だけでしょうか。

シニアをより楽しくしているのが呑み会です。「呑み会無欠席」を誇る強の者、音楽の話は絶対にしないと断言する人、延々とソロを吹き続ける人、家に帰らない人、我を忘れ魂がどこかへ行ってちやつて戻つてこない人、よく寝る人等々毎回大変な騒ぎです。

「Sさん、もう帰りましょうよ。」
「イヤー、まだアレですよ。」
「もう十二時過ぎましたよ。」
「十二時になったらアレですよ、D・Cですよ。」
「しょうがないなあ、D・Cの後はストレートですよね。」
「イヤー、わたしはアレですよ、律儀だからアレですよ。D・Cの後も全部リピートですよ。もう一軒、もう一軒行きましょうや。」

こんな楽しく有意義な呑み会ですが、遠隔地等々いろいろな事情で参加できない団員も多く、シニアの楽しさ、すばらしさを全員で味わうことができないのが現状です。そんな現状を打破する意

味でも、今回の新聞発行は大変意味のあることだと思います。多忙の中快く引き受けて下さいました編集の方には深く頭を下げるしかありません。できればこれまでシニアに関わった全ての方々に送つてほしいものです。新聞の継続には何よりも団員全員の投稿がカギとなります。呑み会同様ぜひみんな楽しんで『シニア便り』を育てて参りましょう。

これからは練習と呑み会とこのシニア便りが、団員交流の三本柱となります。今後も音楽以外のことも含め、何でも話し合い、互いに励まし合い、共に楽しみ合い、心ひとつにして、他には真似のできないより味のある吹奏楽団に成長するよう願つて止みません。これこそ林团长への一番の恩返しとなることでしょう。願いは必ず叶います。

★新入団員の紹介

昨年の定期演奏会以降に入団された方々を紹介します。

- 田中 あみさん トロンボーン
- 長瀬 美由紀さん ホルン
- 間 あゆみさん クラリネット
- 島山 絵 美さん トランペット
- 横山 千草さん パーカッション

♪ちよつと挨拶

「シニア吹奏楽団に入団して」

トランペット 島山 絵美

私がシニア吹奏楽団というバンドを知つたのは去年の夏のことでした。仕事がつめたのは去年の夏のことでした。仕事がつまみの日、私は洗車場で車を洗つていました。そうこうしている内にキクヤ楽器の延寿さんがやつて来て突然、「ラッパを吹かないか？」と誘いかけてくれた事がきっかけとなりシニアに入団することができました。今はまだ未熟な私ですが、

これから一生懸命練習してうまくなりたいので、よろしくご指導お願い致します。

「みなさんこんにちわ」
ホルン 長瀬 美由紀

職場が同じトロンボーンの内岡さんの紹介で平成十三年十一月から入団させて頂きました。ホルンを吹くのは数年ぶり、最初は不安でしたが何度か合奏に参加してみても、改めて楽器を吹く楽しさとみんなと音を合せて曲を創つていく面白さを実感しています。実は自分が吹いている音が実音で何なのかもわからないくらいの私ですが、勘米良さんどうぞよろしくお願いします。

そしてまたホルンでアンサンブルをやりましょう。

「シニア吹奏楽団に紅一点

ホルン奏者 ニュースター 入団

ホルン 勘米良 二六生

何故か毎年の定期演奏会の日、一日だけ三名から五名程度の人員が揃う不思議なセクションは、といいますがまず紛れもなくホルンパートです。これまで通常の練習は六十を過ぎた「ジイサマ」の単純プレイがおよそ五年間も。ハモル楽器も泣いていました。そんな時、昨年度の定演を聴いた或る若き女性がシニアの先行きを懸念されこの度意気揚々と登場。その名は「信頼されるホルン奏者(長瀬 美由紀さん)」です。歓迎、々々、大歓迎です。既に今年からトップを吹いて頂く事が決定して、本人も「おまかせ下さい。」と、力強い返事を確認しております。契約金は？ゼロですが、シニアの不動の主席としてニュースターに乾杯！



チューニング広場

□北海道シニア吹奏楽団

団 長 林 正輝

副団長 中村 曉生 (常任指揮者)

事務局長 佐藤 友則

事務局次長 内田 進二

高橋 章子

理事 内田 進二

勸米良 二六生

佐藤 薫 (コンサートマスター)

柳野 健吾

渡辺 順三

監 事 前谷 浩市

吉田 和夫

☆バートリーダー

○《フルート・オーボエ》

高橋 章子

○《クラリネット》 島田 治子

○《サクソクス》 紀国 潤子

○《トランペット》 佐藤 友則

○《ホルン》 勸米良 二六生

○《トロンボーン》 柿岡 武弘

○《ユーホ・チューバ・パーカッション》

久光 秀樹

※定期演奏会実行委員会設置

(平成14年4月1日現在)

□事務局便り

(1) 四月二十一日(日)

平成十四年度総会を行います。

(練習終了後於ホール)

(2) 四月以降の練習日程は先の別紙行事予定表通り。不規則な月もありますので要確認。

(3) 今年度の定演(十一月三日)に出場できない方、客演の関係がありまので、できるだけ早く連絡お願いします。

(4) 平成十四年度の始まりです。

団費納入よろしくお願いします。

お知らせ

昨年慰問に行きました札幌市手稲区の星置養護学校様より御礼のお手紙を頂いております。ご報告致します。

北海道シニア吹奏楽団様

北海道星置養護学校長

佐藤 義昭

年末お楽しみ会について(お礼)
厳寒の候、貴団におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。日ごろから、本校の教育活動に御理解と御協力をいただき、ありがとうございます。

さて、過日行われました、年末お楽しみ会では、お忙しい中、多くの団員の方々に御参加いただき、ありがとうございます。本校児童生徒も、校歌をはじめ、すばらしい演奏を聴かせていただき、楽しい時間を過ごすことができ、大変喜んでおりました。

これからも、本校の教育活動に御指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。
まずは略儀ながら書中にてお礼申しあげます。
(原文のまま)

掲示 板

□次号より毎号数名の団員の方に登場して頂くと思っております。その為、に原稿依頼をお願いする事となりますが、ご協力をお願いします。団員全員の方に回るようにと思っております。

□現在までの練習曲と練習状況

○未完成交響曲 ○祝典行進曲

○アマデウス・ファボリッツ

○ソーラン節 ○大漁歌い込み

※メンバーが揃わずなかなか仕上がりにません。曲の流れやバランスに苦

労しています。シニアのサウンドを確立する為にも演奏会本番に近い練習をしたいものです。

□『チューニングBOX』設置

この度楽器庫に皆様のご意見・ご希望、アイデア等を投稿できる投書箱を設置致します。記名・無記名は自由です。ご活用ください。

□懇親会(三・四月合同)のお知らせ

日時 四月二十一日(土) 午後6時

場所 洋風居酒屋『孫吉』

豊平区平岸三条十四丁目

平岸グリーンビル(地下鉄南平岸駅)

TEL 011・832・6224

幹事 勸米良さん・久積さん

※参加申し込み、問い合わせは幹事まで。

※その他団に関する事、音楽に関する事、身近な出来事、為になる話、面白い話、私のおすすめの店、アイデア等何でも結構です。内容は自由です。皆様からの投稿をお待ちしております。川柳、クイズ、讀ります・讀ってください等でもいいと思います。是非とも参加してください。



次回の練習日は、

四月十四日(日)です。

多くの方の参加をお願いします。

◎求む、【編集部員】

今編集部では、この『シニア便り』の製作に参加してくれる方を募集していません。楽譜の読める方ならどなたでも結構です。尚、入部試験はありません。

《編集後記》 団員の皆様大変お待たせ致しました。いよいよこの『シニア便り』の発行に迫り着きました。当初の予定とはかなり遅くなり、大変心配をおかけ致しましたこと心よりお詫び致します。諸事情もあり数名の方々よりご指摘を受けつつながらもようやく発進する事ができました。この『シニア便り』は、団員の和と結束を高め、団の基盤強化と更なる成長を目標に発行されます。故に皆様の協力なしでは決して成り立ちません。団員皆様の想いで、演奏と同じく美しいハーモニーを作り上げる事ができるよう、何卒よろしくお願致します。

(裏旋律)